

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/gender/>  
作成: 田中重人 (文学部講師) <tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp>

## 文化論 (ジェンダー論)

(2002年度第2学期) 1年生(第2 Semester) 対象  
<木2>C-200 教室

### 授業の概要 (予定) 10/3 現在

#### 授業の目的

現代日本におけるジェンダー状況の現状と直面する問題、及び、ジェンダーに関する法制度上の問題を明らかにする。

- 前半は文学部が担当 (田中・沼崎)
- 後半は法学部が担当 (辻村・山元・尾崎・久保野・嵩・土佐)

#### 授業予定

1. イントロダクション (10/3)
2. 生活時間と生活周期 (10/10)
3. 社会的地位と資源配分 (10/17)
4. 変容の可能性 (10/24)

ここまで田中担当

#### 成績評価について

期末レポートによります。

#### 教科書・参考書

教科書は特にありません。参考になる図書は授業時間にそのつど紹介します。

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/gender/>  
作成: 田中重人 (講師) <tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp>

## 文化論 (ジェンダー論)

2002.10.03

### 1. 「ジェンダー」とは

**gender:** ……文法上の性の区別をさす。……特定の名詞が **he, she, it** のどれで受けられるかが問題となる。——編=佐々木 達 (1986)『グローバル英和辞典』三省堂、p. 1703。

**ジェンダー (gender):** ……男女両性の生物学的特性の違いを意味する **sex** に対し、文化的・社会的意味づけをされた両性を示す用語として **gender** が用いられるようになった。つまり、生物学的特性によって区別される女性と男性は、彼らが所属する社会が定めた内容の性別特性を身につけるように育てられるので、性格や気質、行動様式などにも、性差が現れるということである。  
——目黒 依子 (1993)「ジェンダー」『新社会学辞典』有斐閣、p. 531–532。

**Sex** と **gender** は厳密には区別できない、というのが最近の議論。

この授業では「性別による差異を生み出す社会的なしくみや、その社会的帰結」をあつかう。

具体的には、労働の割り当てに関する問題をあつかう。

### 2. 有償労働と無償労働

労働 (work) の2条件:

- 設備や原料と結びついて付加価値をもつ生産物を生み出す
- 他人にかわってやってもらえる

労働ではない活動の例:

寝具 + 睡眠 = 疲労回復

台所 + 食材 + 調理 + 食事 = 栄養

有償労働 (paid work) : 設備 + 原料 + 労働 = 生産物 → **販売**

無償労働 (unpaid work) : 設備 + 原料 + 労働 = 生産物 → **消費**

世帯と市場の分離 → 「世帯」での労働と「市場」でやりとりされる労働の分離

(日本では高度経済成長期以降)

家事労働 : 無償労働のうち、労働の提供者と生産物の消費者が同一の世帯にいる場合

### 3. 生活時間調査

- ・ NHK 放送文化研究所「国民生活時間調査」1960-2000 まで 5 年ごと + 1973 年 (戦前からあるが、現在と比較可能なのは 1960 年以降)
- ・ 総務庁/総務省「社会生活基本調査」1976 年から 5 年ごと

### 4. 行動分類ごとの時間配分の男女差

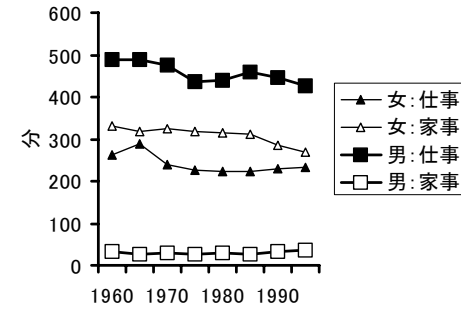
——矢野真和編 (1995) 参照

NHK 放送文化研究所「国民生活時間調査」2000 年から (分単位で計算すること)

	生活必需	仕事関連	家事	通勤	社会参加	会話・交際	レジャー	マスメディア	休息
成人男性 (平日)	607								
成人女性 (平日)	615								
差	8								

男女の仕事・家事時間(平日)

NHK「国民生活時間調査」



### 参考文献

- ・ 池内 康子 + 武田 春子 + 二宮 周平 + 姫岡 とし子 (編) (2001)『21 世紀のジェンダー論』晃洋書房、ISBN 4-7710-1119-2。
- ・ 江原 由美子 + 長谷川 公一 + 山田 昌弘 + 天木 志保美 + 安川 一 + 伊藤 るり (1989)『ジェンダーの社会学』新曜社、ISBN 4-7885-0339-5。
- ・ 矢野 真和 (編) (1995)『生活時間の社会学』東京大学出版会、ISBN 4-13-051107-6。
- ・ 斎藤 美奈子 (2000)『モダンガール論』マガジンハウス、ISBN 4-8387-1286-3。
- ・ 上野 千鶴子 (1985)『資本制と家事労働：マルクス主義フェミニズムの問題構制』海鳴社。
- ・ 木本 喜美子 + 深澤 和子 (編) (2001)『現代日本の女性労働とジェンダー』ミネルヴァ書房、ISBN 4-623-03262-0。
- ・ 佐藤 俊樹 (2000)『不平等社会日本』(中公新書) 中央公論新社、ISBN 4-12-101537-1。